

Lead

All roads lead to the future リード



高知大学
Kochi University

コミュニケーションペーパー
2017 Summer 夏号

¥0
TAKE FREE



〈特集〉

理学部から
理工学部へ
熱帯化が進む
高知の海を探れ!

キラ星高知大生
高知大学から、
初の「地方創生推進士」誕生!

ぼくらのキャンパスライフ
じつは「頭脳スポーツ」!
アメリカンフットボール部

Support
国際連携推進センター 留学のススメ
もっと世界で学ぼう!

高知大学ニュース

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション

Event information 2017 Summer 夏号



オープンキャンパスのお知らせ

Open campus 2017

朝倉キャンパス

8/5 人文社会科学部 10:00 ~15:00

●コース紹介 ●なんでも相談コーナー ●模擬授業・ミニゼミ(各コース) ●キャンパスツアー ●教員と学生の交流会
(詳しくは、人文社会科学部ホームページで案内します。)

<http://jinbun.cc.kochi-u.ac.jp/>

8/5 理工学部 10:00 ~15:00

●学部紹介 ●学科構成と入試概要 ●わたしの大学生活(先輩の話) ●パネル展示と入試相談コーナー ※理工学部1・2号館、情報科学棟、地震観測所、水熱化学実験所(附属施設は自由に見学できます。)

8/6 教育学部 10:00 ~15:00

●入試と学部の説明会 ●グループワーク ●研究室探検ツアー ●ミニ講義(各コース)

8/5・6 地域協働学部 10:00 ~15:00

●学部紹介 ●学部1年生による学びの紹介 ●入試概要説明 ●学部なんでも相談コーナー ●体験実習 ●学生との交流イベント

8/5 土佐さきがけプログラム 10:00 ~15:00

●グリーンサイエンス人材育成コース ●国際人材育成コース ●スポーツ人材育成コース ●相談コーナー ●授業見学 ●留学報告会

8/5・6 全学企画

●保護者向けガイダンス
就職・奨学金・授業料免除関係の説明を行います。
●サークル紹介 ●なんでも相談コーナー ●寮見学 ●男女共同参画でせらめく未来コーナー ●障がい学生サポート・修学サポート相談



高知大学について
開けるチャンス!

体験型の内容も
あります!

岡豊キャンパス

8/6 医学科 13:00 ~16:30

●医学科紹介 ●附属病院の紹介 ●模擬授業 ●研究室見学 ●スキルスラボ実習体験 ●教員・在学生への質問コーナー

8/6 看護学科 9:45 ~12:00

●看護学科紹介 ●入試情報 ●カリキュラム説明 ●台湾大学短期留学期間実習 ●実習室見学 ●体験 ●教員・在学生への質問コーナー

物部キャンパス

8/6 農林海洋科学部 9:00 ~16:00

●個別相談 ●学部説明 ●学科紹介 ●専攻領域・コース説明 ●実験室・研究施設見学 ●ラボツアー ●日章寮(男子学生)見学ツアー ●在学生による学生生活紹介

8/6 土佐さきがけプログラム 9:00 ~16:00

●生命・環境人材育成コース コース紹介 ●在学生の大学生活紹介

イベント情報

朝倉キャンパス

11/3 金・祝・4日 黒潮祭

11月3日(金・祝)、4日(土)に開催します。遊びに来て下さい。



朝倉キャンパス

第8回 11/4 日 ホームカミングデー

今年も、大学祭と同時間開催です。卒業生の皆様の多数のご参加をお待ちしています。

朝倉キャンパス

室戸貫歩 11/25・26日

今年57回を迎えるイベント。朝倉キャンパスから室戸岬までの約90kmを歩きます。

様々な企画を
ご用意しています

岡豊キャンパス

10/7・8日 第37回南風祭

医学部の学生が色々な楽しいイベントを企画します。今年の学祭もよろしくお祈りします!

物部キャンパス

11/3 金・祝 物部キャンパス一日公開

※予定
地域の特産品、農作物の販売や人気のトラクター体験コーナーをはじめ、大学を身近に感じられる催しが一杯です。お問い合わせの上、是非お越し下さい。



メルマガ
配信中!

月2回配信(第2・4金曜日)

高知大学からメルマガジンを配信しています。本学ホームページの「入試情報」→「メルマガの登録はこちら」へ!
<http://daigakujc.jp/kochi-u>



高知大学の最新情報を伝えたい
THE こうち
ユニバーシティ CLUB

FM 高知 毎週日曜日 放送中
81.6MHz (9:30~9:55)

高知大学のHPから過去放送分も視聴できます!
http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fmkocho/
高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。

スポンサー企業
高知銀行/ソフテック



●お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

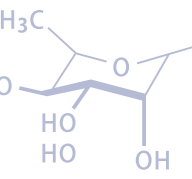
高知大学
Kochi University

高知大学総務課
高知大学 検索
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

理学と工学を融合した教育で 理学部から

理工学部へ



2017年春、それまでの理学部は新しく理工学部生まれ変わりました。そこで、理工学部とはどういう学部か、どういったことを学ぶのかを鈴木知彦理工学部長に話を聞きました。

高知大学理工学部

- ・数学物理学科
- ・化学生命理工学科
- ・情報科学科
- ・地球環境防災学科
- ・生物科学科

「理」と「工」を融合した 学びと研究を目指して

理学部から理工学部へ改組した
目的を教えてください

近年、国立大学が法人化されてから、大学の使命は何かということとがクローズアップされるようになりまし。高知大学の果たすべき役割を考えたとき、やはり、地域と共存して、地域の役に立つ大学であるべきだという結論になりました。そして、どうすれば

地域に貢献できるか、すべての学部で議論されてきたのです。
地域貢献のためには、
理学部の改組が必要だった
ということでしょうか？

理学部は40年に渡って自然のさまざまな法則を純粋に探究し、その真理を明らかにすることを目指してきました。しかし、地域にさまざまな貢献をするためには、理学とある意味では接点が強くなり、実用を重視する工学の考え方を教育、研究に加えることが必要だと考えました。理

学だけではできなかった工学的な
応用研究や、工学の教育を取り入
れる。論理的思考を重視する
「理」と、実用を重視する「工」が融
合した学部になることで、一層地
域に貢献できる学部へと進化でき
るというコンセンサスが生まれ、
学部改組に踏み切りました。

他大学の理工学部との違いは
何ですか？

国立大学では2010年以降、
工学部から理工学部へ、という流
れが加速しています。現在の日本

基礎の理学、応用の工学を ともに学ぶカリキュラム

今回の改組で、5学科に
なりました。

数学的思考、考法、自然の本質を
学ぶ「数学物理学科」、情報科学の
専門知識を体系的に習得する「情
報科学科」、フィ

ールドから室内
実験まで生物科
学の各分野を学
ぶ「生物科学科」、
化学と生命科学
に関する基礎教
育を土台に、環
境・材料・生命等
の分野の高度な

地域のニーズを意識した 教育や研究

地域貢献の面で、どのような
取り組みを考えていますか？

地域のニーズをつかむために、
年4回、地域の企業人を招いて教
員向けのセミナーを行います。



数学物理学科



情報科学科



生物科学科



化学生命理工学科



地球環境防災学科



理工学部長
教育研究部 自然科学系 理学部門
教授

鈴木 知彦

福島県出身。東北大学理学部生物学科卒業。
同大学院理学研究科中退。理学博士(論文)。
25歳で高知大学に着任。「大学で学ぶ問
は、本当に楽しい!理系に限らず、幅広く学
ぶおもしろさを見つけることが、学びのモチ
ベーションになるし、将来の応用力につ
ながります」

地域社会が
何を求めて
いるのかを
聞くチャン
スを積極的
に設けることで、地域のニーズを
意識し、それを教育や研究に活か
していくという道筋をつくりま
した。また、年度末には教員と外
部の企業人の方で、1年間の理工
学部の教育について検討を行う
ことも予定しています。

系人材を育てることが目標です。
世界に通用する、あるいは地域の
ニーズに応えたイノベーション、
技術革新を生むためには、工学的
な考え方に加えて理学の基礎が必
要だということは、全国の共通認
識です。基礎と応用をきちんと身
につけた人を社会に送り出すこと
で、地域は活性化するのであろうし、
卒業生は全国の企業でも活躍でき
ると思います。

Faculty of Science and Technology

こんな講義を行います! 「ヒューマン コンピュータ インタラクション」

論理の「理学」と実用の「工学」を融合した理工学部らしい講義
のひとつが、情報科学科の専攻科目である「ヒューマン コン
ピュータインタラクション」。

「“ヒューマン…”とは、人間とコンピュータの関わりを研究す
る理論。人間とコンピュータのコミュニケーションがスムーズに
なるように設計するための、理論と実践の講義です」と、講義を担
当する三好康夫准教授は話します。

“ヒューマン…”の講義では前半、「ものづくり」、「使いやすさ」に
関する理論を座学で行います。後半は理論に基づいて、実際にもの
づくりに取り組みます。理論と実用という、理学と工学の両方
を学ぶ講義です。

「コンピュータの原理や仕組みを学ぶだけでなく、それを使っ
て何ができるかまで考えます」と三好先生。

実際に作るのはスマホのアプリ。どのようなアプリをつくる
のか企画を考えてプレゼンをし、次に手書きでアプリの設計図を
紙に描き、さらにプログラミングに進みます。

「実はプログラミングよりも、手書きの設計段階に重点を置き
ます。メニューをどうするか、それをどのように表示するかなど、
使いやすいアプリにするための試行錯誤を繰り返します。私もハ
ンパン、ダメ出しします(笑)」

アプリ制作に使うプログラミング言語は講義で教わるわけ
ではなく、基本的に独学で身につけるように指導。実際のプログラ
ミングの現場では、次々に新しい言語が登場するので、独自に習
得する姿勢も身につけてほしいという狙いからです。

講義期間にアプリ完成まで行きつかない学生もいるそうで
すが、出来るかどうかはこだわらないとのこと。

「ただ、できなかつたら悔しいと思ってもらいたい。最後まで作
りあげたい、作れるだけの知識を身につけたい、と思って、それか
らの大学の授業に臨むようになってくれたらいいと思います」

三好先生の専門分野は教育工学で、現在取り組んでいるテーマ
は学習環境デザインとその実現のための情報技術の開発。研究室
では、勉強の習慣化を支援するためのコミュニティサイトのデザ
インなど、ユニークな研究に取り組んでいます。



研究室での研究ディスカッションの様子



ヒューマンコンピュータインタラクションの授業で
受講生が開発した合唱練習支援アプリ

教育研究部 自然科学系 理学部門 准教授

三好 康夫

愛媛県出身。高知大学理学部卒業。同大学院修
士修了後、徳島大学大学院工学研究科博士課
程修了。博士(工学)。「高知大学の理工学部は、
いろいろなタイプの先生がいるのが特徴で
す。例えば情報科学科でも理学寄りの先生も
工学寄りの先生もいるので、自分の学びたい
ことを選べるのがいい点だと、高知大学OBと
して思います」



熱帯化が進む 高知の海を探れ!

他地域に先駆けて、熱帯化が進む土佐湾。
日本の海の将来は、今の高知の海に表れています。
そこで、海の変化を研究テーマとする、中村洋平先生の取り組みを紹介します。

教育研究部 総合科学系
黒潮圏科学部門 准教授

なか 洋平

静岡大学農学部卒業。東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士(農学)。魚類研究の道に入ったのは大学院から。小学生の時、海洋生物学者のジャック・モイヤーと一緒に海に入った経験あり。「その頃から、将来は海の研究者になりたいかった。高知の海は良いフィールドが多く、高知大学に赴任して良かったですね」



横浪林海実験前でのフィールドサイエンス実習



高知県西端に位置する柏島での実習



土佐湾沖の流れ藻に付随する魚類調査



「タラ号」に乗船し、 横浪の海を調査

近年、高知の海が世界的な注目を浴びていることを知っていますか？今年春には、世界中のサンゴ礁と海洋生物の科学探査を行って「タラ号」が高知に寄港。高知大学横浪林海実験所のすぐ前の海を調査しました。このタラ号の調査に参加したのが、農林海洋科学部准教授の中村洋平先生。タラ号のプロジェクトを推進している研究所の教授と、以前、同じ研究室にいたことがある縁から、日本での調査を依頼されました。

「タラ号に同船した研究者たちは、横浪の海の影響変化や、それが漁業に与える影響などについて興味津々でした。じつは高知の海は、温暖化の影響が顕著に表れていることで、国内外に広く知られているんです」



横浪半島沖に停泊するタラ号



高知港でのタラ号船内見学会



夜須での魚類調査

この個性ある海を 実習でも体感できる!

魚類の研究者にとって、高知の海は調査フィールドとして最適と評判です。高知は魚種が極めて豊富。日本にいる約4000種のおよそ半分が生息し、しかも温帯性と熱帯性の両方の魚が見られるとか。「高知の海では、私が研究テーマとしている温帯性から熱帯性へと生物が変わっていく様子を追いやすい。加えて、フィールドがとても近いのも高知の特徴です」

こうした高知の海の魅力を学生に伝えるのも中村先生の役目。「土佐の海の環境学」という共通教育では、ダイビングスポットとして名高い柏島が学びの場。シヌノーケリングで海を観察するほか、島の暮らしなどについても学びます。

こう語る中村先生は魚類生態学が専門。2008年に、高知大学に赴任して以来、高知の海に幾度となく潜って、環境の変化をつぶさに観察してきました。

水温上昇に伴い、 藻場がサンゴ場へ!

高知の海は近年、想像以上に姿を変えつつあるのか。主な原因は海水温の上昇。30年ほど前と比べると、平均1.2度も高くなっているそうです。「タラ号も調査した横浪の湾は以前、左側が岩場で、右側がサンゴ場でした。しかし、いまでは左側にもサンゴがかなり広がっています」

中村先生が取り組んでいる研究は、こうした環境変化が起きた時、魚類相にどのような変化が起きるか。潜水調査では、一定範囲をロープで仕切り、その中にいる魚類の種類や個体数、大きさなどを記録し、生息状況を調べます。



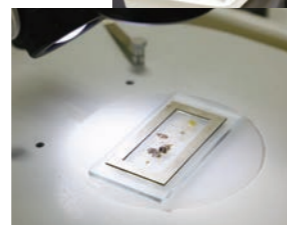
奈半利町での離岸堤調査



宇佐の造成カジメ場の魚類



胃内容物分析による魚類の食性調査



また、1年生の専門導入教育「フィールドサイエンス実習」では、横浪林海実験所の海をシヌノーケリング。入学早々、豊かな高知の海を体感できます。「せっかく高知大学に来たんだから、高知の海の素晴らしさに触れてほしい」と中村先生。自身の研究についても、フィールドでの観察調査が何よりも大事と話します。

「高知の海には、わからないことがまだまだ多い。これからも地道に調査を続けて、データを積み重ねていきます」

他地域に先駆けて進行する、高知の海の変化。日本の海の将来を示す中村先生の研究は、国内外の研究者に注目されています。

文理融合型の研究にも注目

フィリピンの 海洋保護区は有効か!?



中村先生の水族生態学研究室では、海外での研究も行っています。フィールドはフィリピンの海洋保護区。大学院の黒潮圏総合科学専攻で行っている国費留学生優先配置プログラムの一環として、フィリピン人留学生が取り組んでいます。

「フィリピンには1000以上の海洋保護区が存在します。保護区には完全禁漁区と部分禁漁区があり、これらが実際に機能しているのかを調べています」

禁漁区内に潜って魚種などを調べるほか、魚に発信器を埋め込んで放流して行動範囲も調査。さらに、部分禁漁区では具体的にどういった魚が行われているのかも調査しています。

「漁業者にインタビューも行き、漁業の実態を調べました。こうした文系的な調査も行うのは、文理融合を掲げる黒潮圏ならではの研究だと思います」と中村先生。異なる学問領域の組み合わせによって、フィールド調査だけではとどろきつけない、一歩進んだ成果をあげることが可能になっています。



漁民に対する聞き取り調査

高知大学から、初の「地方創生推進士」誕生！



「村の駅ひだかの“とまとすたんど”でのオムライスの提供、店のPR、イベント企画やディスプレイの提案など、いろいろなことをさせていただきました。日高村の魅力は何か、良くするにはどうしたらいいのかなど、多くのことを学びました」と橋田さんは振り返ります。

地域で得難い経験をし、未来に活かそうとする2人。これから「地方創生推進士」を目指す人にエールを！という問いかけに、こう答えてくれました。

「大事なのは誰かの言葉や考えではなく、自分の価値判断。授業で基礎を学んだうえで、自分の解釈により地域創生を考えてほしい」（岩瀬さん）、「受け身の姿勢ではなく、何かできるのかを提案し、実行する。ここまで踏み込んで、地域も自分も、初めて変わることができると思います」（橋田）

2人はともに高知県での就職を志望し、新たな地域貢献を目指しています。



日高村のイベントに参加した「あだたん」メンバー

高知市中心街での高齢者や障害者の買い物支援をはじめ、多目的トイレのバリアフリーマップづくり、「室戸貫歩」の車椅子参加者のサポートなど、多彩な活動を行ってきました。



観光ボランティアガイドを行う「コンパス」の学生

得難い経験を活かし、新たな場で地域創生を！

もう1人の地方創生推進士、橋田さんは高知市出身。高知県が推進する「高知家」の取り組みを見て、「すごく感動し、地域のために何かをしたいと思うようになりました」と話します。友人3人と「コラボレーション・サポート・パーク*」に相談すると、「日高わのわ会」を紹介されました。

橋田さんらは学生サークル「あだたん」を結成し、同村での活動を始めます。「あだたん」とは「収まり切らない」を意味する土佐弁。学生サークルに収まり切らないインパクトのある活動をしたい、という意味から名づけました。



人文学部 4年
はしだ ありさ
橋田有紗さん

「あだたん」には今年、1年生が8人加わった。「やるからにはちゃんと取り組まないと、地域に迷惑をかけるかもしれないので、遊び半分ではダメです」

人文学部 4年
いわせ せいじ
岩瀬誠司さん

自ら立ち上げた「コンパス」は、よさこい祭りにも参加する大所帯に発展。「活動のなかで察してきた地域や人との関係性は、社会人になってからもつなげていきたい」

キラ★高知大生

学内外でキラッと光る高知大生をピックアップ！

立ち上げた団体による積極的な地域活動が評価

今年4月、高知県初の「地方創生推進士」が2人誕生しました。地方創生推進士は2015年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」で創設された称号。地域住民と積極的に触れ合い、地域の課題解決に取り組む経験を経て、地域に貢献しようとする学生に与えられます。

この事業には高知大学をはじめ、高知県立大学、高知工科大学、高知高専、高知学園短期大学、県と経済団体などが参加しています。高知大学では、学生が地域を「知り」、地域と「会い」、地域を「体験」し、地域と「協働」する18単位の教育プログラムを用意。これらを履修したうえで、さらに地域における活動を審査され、認定書が与えられます。今回、初めて誕生した地方創生推進士は、岩瀬誠司さんと橋田有紗さん。ともに人文学部の4年生です。

「一番に取得することを、じつは狙っていました」と笑う岩瀬さんは兵庫県出身。大学入学後、学生サークル「防災すけっと隊」に参加して活動するうちに、地域の課題が見えてきたとのこと。2年生の時に、同好会「コンパス」を立ち上げ、独自の活動を始めました。

「バリアフリーやユニバーサルデザインの視点からまちを観察し、課題を解消することで、より良いまちづくりにつなげたいというのが活動理念です。『コンパス』という名前には、商店街を訪れた人の道標という意味と、人と人をつなぎたいという思いを込めています」と岩瀬さんは語ります。

※コラボレーション・サポート・パーク
学生の「何かやりたい気持ち」をバックアップし、地域や企業とつなぐ高知大学の学内組織のこと。通称「コラボ」。多くの学生が利用し、さまざまな「やる気」を「かたち」にしています。

じつは「頭脳スポーツ」！ アメリカンフットボール部

「マッチョの肉弾戦は アメフトの真髄」

認知度が高い一方、どのようなスポーツなのか、意外に知られていないアメフト。アメリカンフットボール。一般的には、巨体のマッチョが激しくぶつかり合うイメージがありますが、これは単に一面でしかない。アメフトはアメリカンフットボール部の主将井上幹生さんが解説します。

「アメフトはいわば、球技界の総合格闘技です。体の大きな人が相手をフロックし、敏捷な人がボールを前に運び、キック力のある人がボールを蹴る。それぞれの選手が特性を活かしたポジションに就き、その総合力がチーム力になるんです」

秋の中四国リーグ戦で、 今年は優勝を狙う！

アメフトは準備が8割のスポーツといわれています。事前に対戦校のビデオを見て、練り上げた戦術が、試合の勝敗を大きく左右します。体の大きさなどよりも、じつは頭脳が優先するんです」

ビデオ撮影はマネージャーの仕事。県外に遠征時、チームが帰った後も現地に残り、他大学の試合を撮影することもあるそうです。現在、部員は選手28人、マネージャー12人。計40人が一致団結して闘っています。

アメフト部の練習は、朝倉キャンパスの陸上グラウンドで週4日。ポジション別に分かれて、ディフェンスやキック、ボールを奪う練習などを繰り返します。その周りでは、マネージャーたちがタイムの測定や水の補給、ビデオ撮影など、さまざまな面からサポートします。

練習が終わったら撮影したばかりのビデオを見ながら、2時間近くミーティング。「今年は練習を少な目にして、ビデオを見る時間を長めにしています」と井上さん。自分たちの動きを客観的に見て、良いところを確認し、足りない部分を修正するのが狙いです。

ぼくらの キャンパスライフ

高知大生の今にエール！



高知大学アメリカンフットボール部

部員のほとんどはアメフト未経験者で、元文化部も少なくない。コーチはおらず、自主的に運営されていて、選手やマネージャーの仲が良いのが特徴とか。チーム名は「海兵隊」を意味する「MARINECORPS」。

国際連携推進センター 留学のススメ

もっと世界で学ぼう!



大学らしい学びのひとつ、留学。高知大学国際連携推進センターでは、高知大生の留学のサポートを積極的に行っています。どのような取り組みをしているのか、話を聞きました。

早め早めの準備が留学実現への鍵ですね

国際連携推進センター
国際プロジェクト部門長
しばた ゆうすけ
柴田 雄介

福岡県出身。高知大学で英語教育の修士を取得後、ロンドン大学に留学の経験を持つ。「留学に行く」と、日本のことをとてもよく聞かれます。留学準備で大切なのは、じつは日本についての勉強なんですよ。



meeting どうする? 留学の危機管理

留学を考えるとき、気になるのが安全かどうか。そこで、留学の危機管理について、新納・柴田両先生に加え、国際交流室の門脇英雄室長、岡本依里主任ら、センターの皆さんで話し合いました。

★グローバル人材育成を ★目指し海外に ★学生を送り出す

国際連携推進センター(以下、センター)のホームページには、「高知大学に入学した学生たちが、長短の海外留学に行くことが当たり前となるような文化を育て…」という文章を掲載しています。書いたのは、センター長の新納宏先生。その理由を尋ねると、「個人の思いだけでなく、社会的な要請を記しました」という答えが返ってきました。



「国際化が進む日本社会ではいま、グローバルな人材を育成する必要があります。より費用はかからないそうです。」「学生交流の協定を結んでいる大学への交換留学であれば、留学期間中、本学への授業料は必要ですが、留学先での授業料は不要です。実際に発生する費用は、渡航費や現地での生活費、テキスト代などで済みます。」「新納先生。また、高知大学独自の奨学事業もあり、経済的なバックアップを行っています。」

2つ目は語学力。特に交換留学でアメリカの大学に行く場合は、IELTSやTOEFL、IBTなどの英語力判定テストで高いスコアが求められます。柴田先生は「すぐに成績が上がるものではないので、留学を考えているのであれば、1年生から試験対策を始めてほしい。語学力アップを目的とする短期の語学留学をした後、交換留学を目指すのもおすすめです」とアドバイスします。今年度から共通教育に「グローバルコミュニケーション」という科目を新設し、語学留学を組み込んだことで短期語学研修により参加しやすい環境になりました。



★社会に出てから役立つ ★アジアへの留学

3つ目は留年の可能性や、就活に支障をきたす可能性があること。しかし、この面でもサポート体制を整えているそうです。「交換留学の場合、留学先の大学で修得した単位を本学の単位として認める互換制度があります。また、早めに準備をし、2年生の時に留学すれば、就活には響きません」と新納先生が説明します。

入学当初、多くの学生が持っている留学への意欲、それを消さないために、センターではさまざまな取り組みを行っています。そのひとつが、交換留学の流れや心構え、手続きについて説明する留学説明会。年4回実施しており、昨年は延べ約190人の学生が参加しました。



「留学するにはどうしたらいいのか、希望者にきちんと知らせるために行っています。特に長期留学

ただ、事前によく理解しておくべきケースがあると柴田先生。例えば、フィリピンやタイは7月が学期始まりなのですが、本学はまだ第1学期の途中なので、留学する場合は第1学期の授業をあきらめなければなりません」と話します。また、私費留学などは休学扱いになるので、長期留学の場合は留年が避けられません。いずれにしても、早めに計画を立てておくことが、留学をスムーズに進めるコツといえます。



は行きたいと思っても、すぐに実行できるものはありません。1、2年生の時に留学に関する情報に触れて、早くから準備を始められるように、役立つ情報を提供します。」「新納先生



これからを見据えて留学先を選んでみては?

国際連携推進センター長
にのう ひろし
新納 宏

福岡県出身。JICA(独立行政法人国際協力機構)に30年に渡って勤務をし、スリランカ、ウズベキスタンなど、海外駐在の経験が豊富。「留学経験は、人間力の養成につながる貴重な体験。すべての高知大生に経験してもらいたい学びです」



この現状を考えると、学生たちはもっとアジアに目を向けるべきですね」と新納先生は語ります。学生に人気の欧米から、センターおすすめのアジアまで、世界約20カ国約60の大学・研究所と結ばれた高知大学の学生交流協定は、いわば世界に広がる扉です。この扉を開き、留学にチャレンジして、新しい学びの世界に飛び込んでみませんか。

留学の意味は何かを聞く、「学習が深まることはもちろんですが、メタ認知能力も鍛えられます」と新納先生。メタ認知能力とは、自分の思考や行動を客観的に把握し、認識する能力のこと。海外で暮らせば、日々異文化の中で、自分の言葉や行動を意識する必要があります。こうして自分の行動を絶えず再確認することが、自然と能力アップにつながるそうです。

センター国際プロジェクト部門長の柴田雄介先生は、「日本がどんな国なのか外から観察することは、国際理解にもつながると思います。私は留学前、じつは日本があまり好きではなかったのですが、留学先で日本を客観的に見ることで、良さを知ることができました」

★「3つの留学の壁」を ★破る方法は?

2年前に行ったアンケート調査では、大学入学時に留学を希望する学生が55%もいました。しかし残念ながら、多くの学生が途中で留学をあきらめてしまっている現状。そこには、3つの原因があるといえます。1つ目は、費用の負担。しかし、交換留学の制度を使えば、考えている

CHECK!

外務省海外安全ホームページ
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>
渡航先の治安、環境については上記ホームページなどからご確認ください。
また、国際連携推進センターでも情報収集を行うほか、留学についてのご相談も受け付けております。
お問い合わせ TEL.088-844-8683
E-mail kr04@kochi-u.ac.jp



岡本/日常的に、外務省の渡航情報をチェックするなど、留学先の安全情報の収集を心がけています。また、必要に応じて学生や保護者の方に情報提供をしています。新納/大学も学生も、危険を予見するためにできるだけのことをやらなければならない。ただ、今の世の中は予見できないこともあります。それは、海外でも日本でも同じことですよ。柴田/協定先の大学に訪問した時などに思うのは、どこにいても、何か、何をしているのかで、安全性が決まるという事です。夜間など危険な時間に危険な場所に行く、あるいはキヨロキヨロと慣れない様子を歩く。このような危険を呼び込む行為をしなければ、日本と同じくらいの安全は確保可能だと感じます。

地域協働学部の教員・学生有志による「satobito」がオープン

地域産品の販売や商品開発を支援する株式会社「里人」を設立

地域協働学部の教員や学生が中心に出資し、地域資源の商品開発・販売を支援する「株式会社里人」を平成29年3月に設立、地域との協働で生み出された商品の販売拠点として「satobito」を6月24日にオープンしました。「satobito」では、手作りアイスやサンドイッチのテイクアウトのほか、店内ではパスタやピザなどのランチを提供します。大豊町のブルーベリーワインをはじめ、地域産品の直販や通信販売も行います。(営業時間 8:00～18:00、月・木曜定休)



第49回中四国女子学生剣道選手権大会(個人戦) 神崎陽日さんが初優勝

平成29年5月21日(日)、愛媛県武道館において、第49回中四国女子学生剣道選手権大会(主催:中四国学生剣道連盟)が開催され、本学剣道部の神崎陽日さん(人文社会科学部2年、三段)が優勝し、吉田爽華さん(教育学部2年、三段)が3位に入賞しました。この大会は、中四国学生剣道連盟所属大学(31校)から選抜された女子128名によるトーナメント形式の個人戦で、第51回全日本女子学生剣道選手権大会の予選を兼ねて行われました。中四国大会でベスト4に本学の選手が2名入ったのは快挙で、本学剣道部女子が中四国の個人戦で頂点に立ったのは創部以来初のことです。



平成28年度高知大学国際交流基金助成事業報告会

4月19日、平成28年度高知大学国際交流基金助成事業報告会を開催しました。報告会には、平成28年度の「外国人留学生への奨学事業(一般型)」、「外国へ留学する学生への奨学事業」及び「大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業」の3つの事業の採択者9名を含む、学生・教職員約30名が参加しました。

外国人留学生への奨学事業の採択者2名が学修状況報告、外国へ留学する学生への奨学事業の採択者1名がノルウェーでの半年間の留学報告、大学院生の研究発表を目的とする海外派遣事業の採択者1名がギリシャでの学会参加の成果報告を行いました。報告者からは、「日本で就職したい」、「留学の成果を卒論に活かしたい」など、貴重な経験を通して得た成果を今後へ還元していく抱負が語られました。



4月24日～28日に平成29年度第1回「学長めし」を開催しました。この「学長めし」は、平成25年度から毎月開催しているもので、脇口宏学長が、大学生協食堂のメニューから選んだお薦めの一品(4月はチャーシュー丼と小鉢のセット)が割引価格で提供され、毎回好評を得ています。4月27日には、食堂で脇口学長と奇術部や吹奏楽団、よさこいチーム、野球部などで活躍している理工学部の学生7名が、学長めしを味わいながら懇談しました。参加した学生からは、「学長から貴重な話を聞けて良かった。将来を考える良い機会になった。」と感想がありました。



平成29年度 第1回「学長めし」を開催

「教職実践高度化専攻(教職大学院)(仮称)」設置計画書を提出 平成30年度設置予定(設置申請中)



平成30年4月開設に向け、教職大学院「高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻(仮称)」設置計画書を平成29年3月に文部科学省へ提出いたしました。当該専攻は、高知大学初となる専門職学位(教職修士(専門職))を授与する課程で、常に高知県の学校教育の現場を念頭に置き、学校教育に関する理論と実践の融合によって、高度専門職業者としての学校教員を養成することを主な目的としています。

※本内容は設置申請中のものであるため、変更と
なる可能性があります。

理工学部 銘板除幕式を挙行

理工学部を再編した理工学部の銘板除幕式が4月4日、関係職員及び学生出席のもと執り行なわれました。朝倉キャンパスの理工学部棟2号館のエントランスに設置された銘板を覆う布が取り払われると、黒地に金色の学部看板が現れました。理工学部は、4月3日に入学式を終えた第1期生255名を迎え、新たなスタートを切りました。



地方創生推進士 認定証授与式

高知大学では、平成27年度から文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」により、県内の高等教育機関や行政・経済団体と連携した教育プログラムを創出し、高知県に対する深い理解と愛情を持った学生「地方創生推進士」を育成しています。この度、2名の学生が地方創生推進士に認定され、4月14日に高知大学で認定証授与式が行われました。授与式では、事業関係者や報道各社が集まる中、はじめに事業推進責任者である櫻井克年理事(総務・国際・地域担当)から地方創生推進事業(COC+)についての概要説明があり、続いて地方創生推進士認定証とバッジの授与が行われました。今回地方創生推進士となった人文学部社会経済学科に在籍する2名の学生は、それぞれ独自の学生団体を立ち上げ、地域支援活動の経験を持つ。学生からは「これまでの活動が評価され、さらに地域活性化に取り組みたい。変化し続ける地域の課題に対して考え、実践したい。」といった力強い言葉が語られました。(関連記事を5ページに掲載)



医学部附属病院「光線医療センター」キックオフシンポジウムを開催

医学部附属病院は、平成29年4月1日に光線医療センターを設置し、これを記念して4月17日、キックオフシンポジウムを開催しました。

同病院では、特殊光源を使って病巣を光らせて診断・治療を行うなどの光線医療の研究を推進しており、より独創的な光線医療の開発、実施、普及を目的に光線医療センターを設置しました。これまで個々に取り組んでいた光線医療の診療、研究、教育を組織横断的に実施するもので、今後、現行の光線医療技術の臨床実施、さらに国内外への普及との新たな高精度かつ患者の負担の少ない光線医療技術の開発が期待されます。

シンポジウムでは、脇口宏学長及び横山彰仁病院長の挨拶が行われ、引き続き、同センター長の花崎和弘教授及び副センター長の井上啓史教授からセンター紹介の後、文部科学省高等教育局医学教育課大学院支援室長の丸山浩氏、独立行政法人医薬品医療機器総合機構医療機器審査第一部審査専門員の藤本尚弘氏から来賓挨拶が行われました。続いて、大阪大学工学研究科教授の粟津邦男氏を座長とし、日本レーザー医学会理事長の古川欣也氏から「光線医療の進歩と今後の展開」と題して特別記念講演が行われ、約180名の教職員らが熱心に聴講し、盛会のうちに終了しました。



「高知大学修学支援基金」への寄附のお願い

本基金は、修学意欲を持ちながら、厳しい家計状況によりそれを断念せざるを得ない学生に対して給付する奨学金として活用します。

■問い合わせ先 高知大学総務部総務課
TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738
E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp
URL:http://www.kochi-u.ac.jp/shugaku-kikin/

■「高知大学修学支援基金」及び「高知大学さきかけ志金」(教育・研究・社会貢献活動による支援)に寄附を行う際に、インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。

